

= 普及情報 =

No. 12

平成29年3月8日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標題 集落営農組織で「かあちゃんブロッコリー」の栽培面積拡大中！！

(ダイジェスト)

出雲市平田町のブロッコリーは「かあちゃんブロッコリー」の愛称で販売されています。生産者の高齢化により個人での栽培面積は減少傾向となる中、近年、集落営農組織での作付は拡大しています。平成28年産秋冬作は2組織が栽培を開始し、ブロッコリー部会全体での作付面積は拡大しました。そして本年産秋冬作からは新たに3組織が作付を検討しており更なる栽培面積拡大が期待されます。

JAしまね出雲ブロッコリー部会は、部会員の高齢化等により個人での栽培面積は減少傾向となっておりますが、その一方で集落営農組織での作付は拡大しています。平成28年産において、春作では集落営農組織7組織中3組織で面積が増加し、秋冬作では新たに2組織で80a（A組織50a、B組織30a）の栽培が開始されました。これにより前年産と比較して、春作で1ha増（15ha）、秋冬作でも1ha増（36ha）となりました。増加している理由は、米価下落等に対応するため、関係機関が集落営農組織の多角化に向け、野菜等の導入を働きかけ、そして地域内で先陣を切ってブロッコリー栽培に取り組み、経営の多角化を図った組織があったこと等によるものです。

新規に取り組んだA組織は、初期生育期の長雨や台風の影響で湿害を受け、計画を下回る収量となりましたが、全国的に野菜が高騰し、出荷期間中（11～12月）高単価（平均単価571円/kg）で取引され、「反収は低かったが値段がいい時に出せてよかった。」という感想が聞かれました。もう一つのB組織は、価格はそれほど高くなかったものの生育が順調に進み良品のもの収獲（収量が624kg/10a）され、両組織とも予定していた収益を得ることができました。

本年産においてはA組織が春作30a、秋冬作1haの作付、B組織が春作30a、秋冬作50aの作付を予定されており栽培面積が確実に拡大します。また本年産秋冬作からは新たに3組織がブロッコリーの作付を検討されています。

普及部としてはJAしまね出雲地区本部、農業技術センターと協力し、これを契機に更なる生産拡大を図っていきます。



収穫前のブロッコリー



収穫作業中のブロッコリー畑